



火災予防ニュース

第31号 令和6年10月1日 苫小牧市消防本部予防室発行

～2024年度全国統一防火標語～

『守りたい 未来があるから 火の用心』

日頃より、火災予防活動へのご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

元日に発生した能登半島地震では、石川県輪島市において、焼損棟数約240棟、焼失面積約49,000㎡という大規模な火災が発生しました。近年の大規模地震において発生した火災の過半数が電気に起因しているという調査結果が出ております。地震時の電気火災のリスク軽減のためには、感震ブレーカーの設置をはじめとする日頃からの地震対策と火の用心の心掛けが大切です。全国統一防火標語にある通り、ご自身やご家族、地域住民の命や財産、そして未来を守るために火災予防を徹底しましょう。

★秋の火災予防運動を実施します★

10月15日～31日までの17日間、秋の火災予防運動を実施します。今回の火災予防運動では「地震火災対策」と「住宅防火対策」の2つに重点を置いて取り組みます。

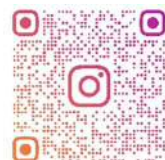
元日のあのニュースを見たときに、『我が家も対策をしないと...』と思われた方も少



なくないと思います。その後、実際に対策をされた方はどれくらいいるのでしょうか？地震はいつどこで起こるかわかりません。しかし、感震ブレーカーの設置により地震時の電気火災のリスクは確実に減らすことができます。元日のあの気持ちを思い出し、この火災予防運動を機にご自宅の火災予防対策を見直しましょう。

苫小牧消防公式 Instagram では、火災予防に関する内容をこの運動期間中に随時更新予定です。下記のQRコードからフォローして頂き、チェックしてみてください！

『いいね！』も宜しくお願い致します！



TOMAKOMAI.FIRE.DEPT





地震が引き起こす電気火災とは？

地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことです。

⚠「電気火災の事例（その1）」

地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱。

▶ 停電した状態から通電し、ストーブが作動。

▶ 紙類に着火、火災が発生。



⚠「電気火災の事例（その2）」

家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引張で損傷。

▶ 通電の瞬間、コードがショート。

▶ 散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火。



感震ブレーカーとは？

感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

（注）住宅分電盤の種類に適した製品をお選びください。



感震ブレーカーを設置して
電気火災から「家」・「地域」を守ろう。

【この資料に関する問い合わせ先】

経済産業省商務情報政策局商務流通保安グループ電力安全課
〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
TEL (03)-3501-1742
経済産業省ホームページ
http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html
内閣府ホームページ
<http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkisaisaku/index.html>



内閣府



消

防

庁



経済産業省